

しなののうた

立春と聞けばからだは軽くなり日脚も延びて街に向かいぬ

l・M

杉田小百合

しなののうた

風邪ひきて雑炊炊けばぐつぐつと音のみ聞こゆ寒き冬の夜

杉田小百合



しなののうた

山の端を赤く染めつつ陽は沈み影絵のごとく山並み映す



杉田小百合

しなののうた

靴紐をぎゅつと結びて今朝孫はバトミントンの試合に向かう

杉田小百合



しなののうた

境内の樹齡重ねる櫟の木太き根元に冬の陽の射す



杉田小百合